

IBMは野洲事業所の工業団地化、

解散路線を止めよ!

人身売買を許すな!社員は「モノ」ではない!

IBM、関連会社は社員の雇用と職場に責任を持て!

か い な
号 外
(2004年04月22日)
JMIU日本IBM支部
野洲分会
責任者 北川定

- ・IBMに帰任した社員に、本人の希望を尊重した新しい職場を提示せよ。
- ・YSC、日立GSTへの「移籍」をIBMからの出向に戻せ。

意見は、組合ホームページ : <http://www.bekkoame.ne.jp/i/jmiu-ibm>

組合e-mail : jmiu-ibm@i.bekkoame.ne.jp までお寄せください

労働相談一般は、滋賀県労働組合総連合

(Tel.077-521-2536 Fax.077-521-2534 e-mail : kenroren@mb1.kisweb.ne.jp)

人材派遣会社への出向問題とその後

日本IBM(株)とエンジニアリングアウトソーシング(技術者派遣)の最大手である(株)メイテック(東京本社/名古屋本社)が強力なタッグを組んでIBM社員(野洲の21名)をメイテックへ出向させ、その後メイテック社員として全く関連のない会社に派遣しようとしてきました。2月25日にIBM廣瀬執行役員が当事者に対する説明を実施、2月27日にはAPT0人事の竹本担当が「この際人事としての社内での職探しを断念し、メイテックに今後の職探しを依頼する」というような業務放棄を宣言しました。そして、非組合員14名は3月3日~26日まで、組合員7名は3月07~17日までメイテック厚木の寮と研修センターに研修出張と称して強制的に出張させられ軟禁されました。研修とは名ばかりで、そこでの内容は派遣先との面接のためのビジネスマナー講習・メイテックの社内規定等の説明及び当事者の職務経歴書作成でした。

3月26日、東京にて中央団交が開催されましたが、会社側は当メイテックへの派遣問題に関する議題に入る前に自ら「組合員に対する出向命令の取り消し」を提示してきました。これはIBM及びメイテックは「法律に何も抵触するところはない。」と発言していたものの、どう考えても「二重派遣」という色合いが濃厚で

あり、会社の立場が危うくなると判断した結果だと思われます。組合から会社に対して、「この人材派遣を前提とした人材派遣会社への出向プログラムは取りやめにするのか。」と問いただしたところ、「出向に口頭同意されている非組合員の方々がいるので出向プログラムは継続する。」との事でした。

従来、野洲のスペシャルプロジェクトでの組合加入者は4名でしたが、2月27日の人事からの強制出向に異議を唱えた4名が加入し、8名となり。さらに、3月26日の組合員に対する出向命令の取り消しや、3月18日以降の会社やメイテックの対応急変により3月末までに9名が加入し計17名(野洲全体として組合員は、30名)となりました。残念ながら、4名の方は組合に加入されずメイテックへの出向に同意され、現在メイテックの厚木にて派遣先が決定するのを待つ状態ですが、なかなか派遣先が決まらないようです。

以前より、IBMの大歳社長は、「IBMは新たな人事施策の毒見役である。」と宣言していますので、今後も色々なりストラ策を練ってくると思います。会社もリストラに関して本気ですから、個人で会社と戦うのは限界が出てくるでしょう。そのときは、個人で悩むのではなく組合にご相談ください。

今回は手始めとして野洲のスペシャルプロジェクトが対象となりましたが、今後は野洲全体

に、さらには全社的にリストラを推進してくるでしょう。

我々は、会社が企てている新たなリストラに断固として反対すると共に、本来会社が社員に対して適正な業務を与えるという責任を追究していきます。

会社都合の精算

清算で社員を「モノ」どうぜんに捨てるな！！

IBM野洲事業所内にあるDTIが年内会社清算を発表し、従事している約400名の社員(殆どは同事業所内にあるIDT社へ出向中)を、4月30日をもってIDT社への転籍(300人枠)と残り105名には退職または幹旋会社を紹介という無責任なかたちで整理解雇を行うおとしていることはお伝えしました。また、赤字でもない企業が会社都合による清算ということにおいてこのようなことは、社会的に許されないこともお伝えしました。

組合は4月1日にIDT社と団交を行いDTI社という転籍枠300人の方について問うたところ、「300名という数字はIDTが、各職場で必要な人をリストアップした結果であり、その人がもし転籍を断っても枠外の105名から補充はしない」という答が返ってきました。これでは最初から105名は退職か幹旋会社へという話でDTIはこの清算を進めたのではないかという疑念を持たざるを得ません。

この結果を持って4月1日に再度DTI社と団交を行いましたが、会社は「DTI社は個人の希望を聞いてIDT社に伝えただけだ。採用の可否はIDT社にある」と言い放って責任追求を逃れようとしています。

現実では300名のノミネートされた人で転籍を希望したのは180名あまり、残りの方は退職を希望されたとのこと。この差分の120人分枠にノミネート外の105名を入れる交渉はしたのかとの問いには「いろいろ努力はしているが難しい、だめだった。」の一点張りで、何時どのように交渉したかについてはまっ

たく説明がありませんでした。

IDTへの転籍以外の選択肢についても、前回の団交同様「幹旋会社を紹介するのだから義務をはたしている」とかたくなに言い張るばかりです。これでDTIは雇用責任を果たしていると言えるのでしょうか。

滋賀県地方労働委員会への申請状況

1 / 19 申請内容

1. 『野洲セミコンダクター(株)の団交拒否、質問状に回答しない』
* 委員会の指導により、会社は組合に回答し(全く、不誠実な内容でしたが)、団交に応じました。
2. 『IBMが社員に一年以上、仕事を与えない』
* 「事前協議をやりなさい。」という委員会の指導を当事者能力のない野洲人事が拒否をしました。

3 / 24 申請内容

3. 『IBMは派遣を前提にした出向命令を取り下げよ』
* 委員会の審議に入る前に、団交において組合が裁判も辞さない抗議をしたことにより会社は3 / 31に取り下げました。
4. 『野洲セミコンダクター(株)はK組合員へのいじめ、嫌がらせ、差別をやめよ』
* 4 / 22に審議に入ります。

組合掲示板について

健康管理室前(1号ビル2階社員ルーム前)に組合掲示板が設置され、組合情報を掲示しています。